



## 学長×学生対談

### 特別座談会

# 大学時代を振り返って

この春、奈良教育大学を巣立っていく皆さんと、柳澤学長が対談しました。大学(院)時代の思い出や進路サポート、そして在学生・新入生に対するメッセージなどを熱く語ってもらいました。

まず学長から、卒業される皆さんへのメッセージをお願いします。

**柳澤学長** 4回生の皆さんは平成16年入学で、国立大学法人奈良教育大学の1期生になるんです。法人になる前と後でそんなに変わっていないと思うんですけど、先生方や職員の方の心構えとどうか、学生諸君に対する向き合い方の親密度がさらに増したのではないかと期待しているんです。

皆さんは卒業後の進路が決まっています、それは努力の結果だと思っています。本当におめでとうございます。いよいよ社会に出て自分の夢を切り開いていくという、人生の非常に華々しい時期であり、希望を持って進んでいただきたいと思っています。「皆さんの将来に幸あれ」と最初に申しあげて、いろんなお話を聞かせていただければと思います。

## 大学で学んだこと、 取り組んだこと

皆さんは入学された当初、または入学後、奈良教育大学についてどのような印象を持たれましたか？

したか？ また、どのようなことを学ぶことができましたか？

**井上** 大学に対する入学前の印象は、人がいっぱいいてキャンパスも広くて、中庭でバトミントンして(笑) ……みたいなイメージがあったんですけど、奈良教育大学を見た時、最初は「小さいなあ」と思いました。でも規模が小さくて少人数だからこそ、顔を知っている人ばかりで、仲を深めやすかったですね。

あと、少人数の授業も印象に残っています。英語をきれいに発音してみんなの前で発表するという授業なんですけど、とても厳しくて何回も落とされました。仲間と家集まって練習しながら、最後は何とか合格できたんですが、その授業も少人数だからこそ、あんなにきめ細かく見てもらえたんだと思います。

**北山** 私は、文化財の勉強がしたくて奈良に来たんですけど、大学4年間は、「文化財を保護していくためにはどういうやり方をしたらいいのか？」と常に考えながら生活してきました。第一線で活躍されている素晴らしい先生方から授業を受けられたし、奈良にはたくさん文化財が存在するので、肌で直接学べたというか、空気を感



総合教育課程  
文化財コース  
4回生

北山純子さん  
(奈良市役所合格)



学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース  
4回生

市川洋子さん  
(横浜市小学校  
教員合格)



学校教育教員養成課程  
言語・社会コース  
2008年卒業

井上大悟さん  
(奈良県小学校  
教員合格)



大学院  
教科教育専攻  
保健体育専修  
2回生

阿部 智さん  
(大阪府中学校  
教員合格)



大学院  
教科教育専攻  
理科教育専修  
2回生

仲島浩紀さん  
(帝塚山中学校・  
高等学校教員内定)



総合教育課程  
生涯教育コース  
4回生

帯刀嵩史さん  
(奈良教育大学  
大学院進学)

じられたことが特に良かったと思います。

あと、日本の伝統的なものに興味があつて華道部に所属していたんですが、人数は少なかつたけどなかなか面白かつたですね。また華道部を通じて、文化会という委員会にも関わっていたのですが、また違う活動が広がっていくところがあり、非常にいい経験になったかなと思います。

**仲島** 僕は、大学と大学院の6年間でいろんなことを学びました。できるだけ子どもたちと関わりたいという考えから、例えば地域の小学校・中学校に行つて、子どもたちと理科の実験をするという企画を実現しました。他にも、附属中学校の先生に声をかけていただき、科学部のロボットコンテストのコーチとして1年ぐらい関わつて、オランダの世界大会までついで行きました。

そういう活動を通じて、いろんな人たちと出会えたことが大きいですね。小中学校の現職の先生と知り合つたり、企業の人や第一線の研究者と話したりできる機会もあつて。そういう人たちといろんな話をする中で自分の教養が増えてきて、子どもたちにもいろんなことを語る経験がいつばいできたと思います。

**大学・大学院時代に一番力を入れて取り組んだことや、一番に残っている思い出などについてお聞かせください。**

**市川** 私は陸上競技部に所属して4年間活動していました。中学・高校と陸上をやっていたのですが、浪人している1年間は全くやっておらず、「自分ができるんだろうか?」という不安がありました。入部したら人数が少なくなくて、女子部員が私の学年では1人だけ、しかも指導者もいない状態でした。

授業もありボランティアなども行っていた中



柳澤保徳学長

で、週5日間練習していたんですが、部員ひとりひとりがそれぞれ目標を持って、自主的に取り組む部分が多かつたと思います。いろんな大会で、自分の目標を持ってチームで戦っていくことによって、仲間とのつながりができたと思います。

**帯刀** 「大学生になったら、親の援助なしで全部自分でやる」と決めていたので、自分のやりたいことは絶対しようと思つていました。僕はスポーツ心理学をやりたいかつたんですけど、法人化に伴う改変でできなくなつてしまいました。でも、どうしても勉強したいと訴え続けていたら、いろんな先生方に協力していただき、今春から大学院で学ぶことができるようになりました。もし他の大学で、学びたいことがすんなり学べていたら、そこまで熱心になつていなかったかなと思つて(笑)。先生方が温かく見守つてくれたからこそ、自分から積極的に学ぼうという気になつたのだと思つています。

**阿部** 僕の場合は、1年生の時の基礎ゼミで、飛鳥から大学までみんなで大ウォーキング大会をしたことと、去年その基礎ゼミのお手伝いで、京都駅からここまでウォーキング大会をしたことが一番の思い出です。それまで、コースの人みんなでそういうイベントをやる機会がなかつたので、楽しかつたですね。朝6時ぐらいから出発したん



ですが、さすがに疲れました（笑）。

あと大学院では、女子サッカー部の指導をしていました。女子の場合はまずほぼ全員が未経験からのスタートで、サッカーに対する知識もないので、口頭で指導してもわからないことが多いですね。教え方が非常に難しかったんですが、来年から中学校で多分クラブ活動を持つことになるので、その経験が非常に役立つかなと思います。

今のお話を聞かれて、学長は学生の皆さんに対してどんな印象を持たれましたか？

**柳澤学長** 皆さんの話を聞いていて、奈良教育大学のいいところが皆さんの中に凝縮されているな、という印象を持ちました。それぞれの専門分野で、「大学や大学院で何を学んだ」というのを持ちながら、それに加えて「これをやった」と主張ができるということは、本当に育て甲斐のあ

る、しっかりした学生諸君が多いのだな、と率直に思いました。

## 大学の進路サポートについて

進路に対する大学からのサポートについてお聞きします。また、「もう少しこういうサポートをして欲しかった」という意見があればお願ひします。

**井上** 僕は教員採用試験を受けたんですけど、大学で何回かセミナーや模擬試験を受けて、それがすごく役に立ち、身についたと思います。

それと試験当日、会場の門の前で大学の職員の方が「がんばれ！」と書いた横断幕を持っていたので、僕が寄って行ったら、キットカット（きつと勝つ）をくれました（笑）。他の大学だったらそこまで熱心になってくれないだろうなと思って、ちよつと恥ずかしかったけどうれしくて、頑張ろうと思いました。

**阿部** 僕が4回生の時に、教員採用試験を受けた時から、大阪府の方で2年間猶予してくれるシステムができ、運よく受かったのでそれを使わせていただきました。卒業後の進路が見えた上で大学院に進学したので、「自分は修了したら教師になるんだ」という意識が強くなり、何事も「教員になる」ことを念頭において取り組むようになりました。

大学の時はあまり深く考えずに過ごしていたんですけど、大学院では「もし先生だったらどうするんだろう？」と考えるようになりました。先が見えた上で進学できる制度は、思い切り勉強ができるという利点もあって、僕としては非常にありがたい制度だったと思います。

**仲島** 大学の先生方や教育委員会の方など、すごく偉い先生が講演に来てくださる場があったんですけど、もつと年齢の近い身近な先輩が、後輩に語りに来る場があってもいいのかなと。新任教員として半年や1年経った時に、自分が気づいたことを学生たちに語ることで、現場の空気みたいなものを聞ける機会があればいいと思います。

逆に、大学には知的財産がいっぱい集まっているので、第一線の大学のお話を教育現場に持ち帰ることもできるだろうし、お互いのためにもいいのかな、という気がします。

以上のお話から、就職や進路について学長ご自身が考えておられることは？

**柳澤学長** 最初に、法人化になって大きく変わった1つが、就職支援室を設けたところにあると思います。オフィスを設けたこともあるし、模擬面接を含めて対応してきました。教師や一般の就職、公務員もそうなんですけど、学生諸君の夢を叶えるために、先生方には授業はもちろん、それ以外の場でも力を入れていただいています。学生諸君の進路についてはなるべく早く報告してもらって、改善したい課題があれば、先生方と職員とが連携する形で、就職支援室がパートナーとしてしっかりと対応していきたいと思っています。

皆さんの今の話を聞いてみると、かなり早い段階で自分の進路を決めており、それに対して、大学からの適切なサポートができていいるなと思います。

就職の対応以外で、法人化に伴って大きく変わった点は？

**柳澤学長** 国立大学当時は国のお金ですから、学生に会計まで任せることはあり得なかったんで

すが、その点は遥かに自由になったと思いますね。学生諸君が「こういう企画をやりたい」とプログラムを提案してきた時に、学内で審査をして認められれば、それを財政面も含めて支援していきます。学生諸君のニーズや希望に応じて、企画力・実行力・実践力を自分たちで高めていくような工夫をしています。

## 新入生へのメッセージとこれからの奈良教育大学

最後に、卒業・進学される皆さんから、後輩の在学生や新入生に対するメッセージをお願いします。

**帯刀** 僕もまた大学院に進学する身なのですが(笑)、「教師になりたい」と思って来て欲しいと思いますね。これだけ熱心に指導してくれる先生がいる大学なので、本当に教師になりたい人がいっぱい合格してくれたらいいなと思います。また、そういう意欲を見る入試制度もあって欲しいと思いますし、入ってくる人も、教師を目指して4年間、精一杯頑張つて欲しいと思います。

**市川** 1回生の時に先輩から、「自分から動かなかったら、何もしままま4年間が過ぎちゃうよ。やりたいことはやっておきなさい」と言われました。本当にその通りで、勉強一つにしても、高校までのように人から「やれやれ」と言われることがないので、自分から積極的に勉強しようと思わなかったら、そのまま終わってしまいます。サークルや部活、ボランティア、バイトなど、意欲を持って動いて欲しいなと思いますね。

**北山** 卒業する時に後悔のないような大学生活を送って欲しいと思います。私自身やりたいことはまだ残っているんですけど、とりあえず後悔の

ない4年間を過ごせたというのが自分の中ではあります。卒業してから後悔しても、取り返しがつかないし解決策もないので、自分が後悔しないように過ごしてもらえたらいいなと思います。

**柳澤学長** 社会からこれだけ教師に対する厳しい批判があり、先生はかなり厳しい状況に立たされているんですが、入ってこられる方は、より強く「教師になりたい」という意欲を持って、本学を目指して欲しいと思います。奈良という独特の時間の流れ、文化環境というものがベースにあるので、少人数教育であったり、奈良の環境を生かした授業であったり、いろんな特色ある教育を用意して、新入生を迎えたいと思っています。

今後、大学としてやってみたいことや夢などについてお聞かせください。

**柳澤学長** 奈良教育大学を巣立っていく人たちのネットワークができたらし…とっています。皆さんのキャリアサポートをもう少し幅広くできないか。大学院に行けなかった人も、現職教員になつてから大学院に行くべき時代になっているのだからと思います。

学校教育の現場は、常に最先端の課題を背負っています。それに現場で対処するのはもともと無理な話で、現場の課題に教師が接して、それを大学が引き受けて教員養成に反映させる訳ですから、3〜5年遅れてしまう。そういう意味で、教員になられる皆さんは、学校で困っている課題などを、とりあえず指導教員の先生に伝えていただきたい。

10年経ったら子どもたちが気質も含めて変わってくるので、それに対応しようとする、教師は経験的に学ぶしかない訳ですよ。そうではなくリアルタイムに、大学と共同の研究と云うか

事業ができればと思うんですが、その時に卒業生がみんなバラバラになってしまっていたら、もったいないですよ。研究的な、OB・OGの集まりがあればいいなと思います。大学にはある種の知的財産がある訳ですから、それをもっと自由に活用できるようにしていけたら…と思いますね。

ありがとうございます。

皆さんの卒業後のご活躍に期待しています。

